10年間の出来事

業務用ポリ袋

いつもありがとうございます
ナースにエール!
花キューピット
いつもありがとうございます
ナースにエール!
花キューピット

神戸赤十字病院の皆さま
いつもありがとうございます

神戸赤十字病院の経営改善について

神戸赤十字病院　副院長・心臓血管外科部長　築部　卓郎（つくべ　たくろう）

1. はじめに

神戸赤十字病院は2003年の開院以来、経常的に厳しい財政状況が続き、2018年までの15年間で年間の全体収支の黒字は３回、2014年以降の４年間は赤字が続いていた（図１）。そうしたことから病院の経営状況を改善する目的で月に１回の割合で経営企画会議が開かれていたが、さらに経営改善を強化する目的で2018年11月より院長直轄の経営企画部会が立ち上げられた。

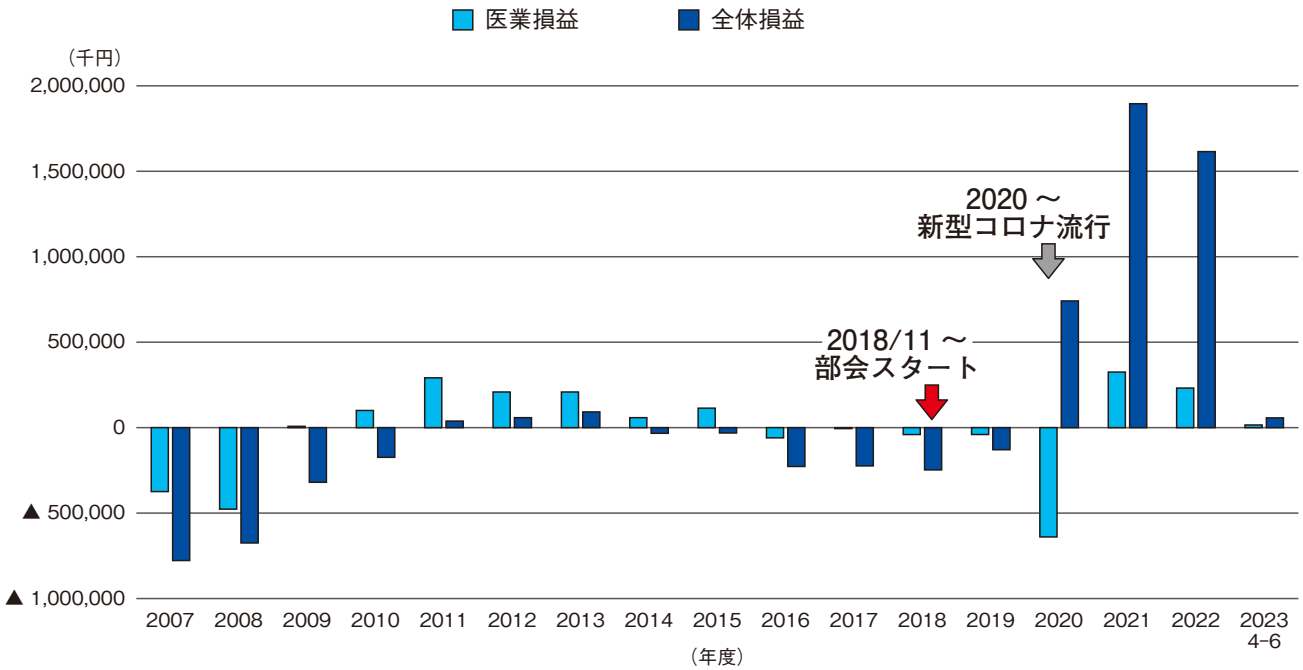


図１：2007年度からの医業収益と全体収益の推移

（１）経営企画部会の発足

部会は毎月２回開催して、経営改善につながる諸問題を出し合って議論し、まとめた内容を経営企画会議にて報告、提起し、院長、看護部長、事務部長の病院幹部に諸課題に関し共通認識をもっていただいたうえで承認を得て、既存の院内の各委員会に要請する形を取った。

（２）部会のミッション

部会のミッションを**“黒字化　皆のモチベーションを下げずに”**とし、まず院内に公表して広く周知した。黒字化については、“経営を優先すると医療の質が落ちるのではないか”“そもそも公的病院は非営利組織であり黒字化にする必要があるのか”など、経営改善への取り組みに関しては方向性が違うと考える職員もいた。そこで、「最低限、黒字でないと持続した良い医療はできない」という共通した認識を持とうというところから取り組みを始めた。

（３）中堅を中心としたメンバー構成

「院内で十分に活かされていない資源は人的資源である」と考え、中堅層を中心とした組織作りを行った。

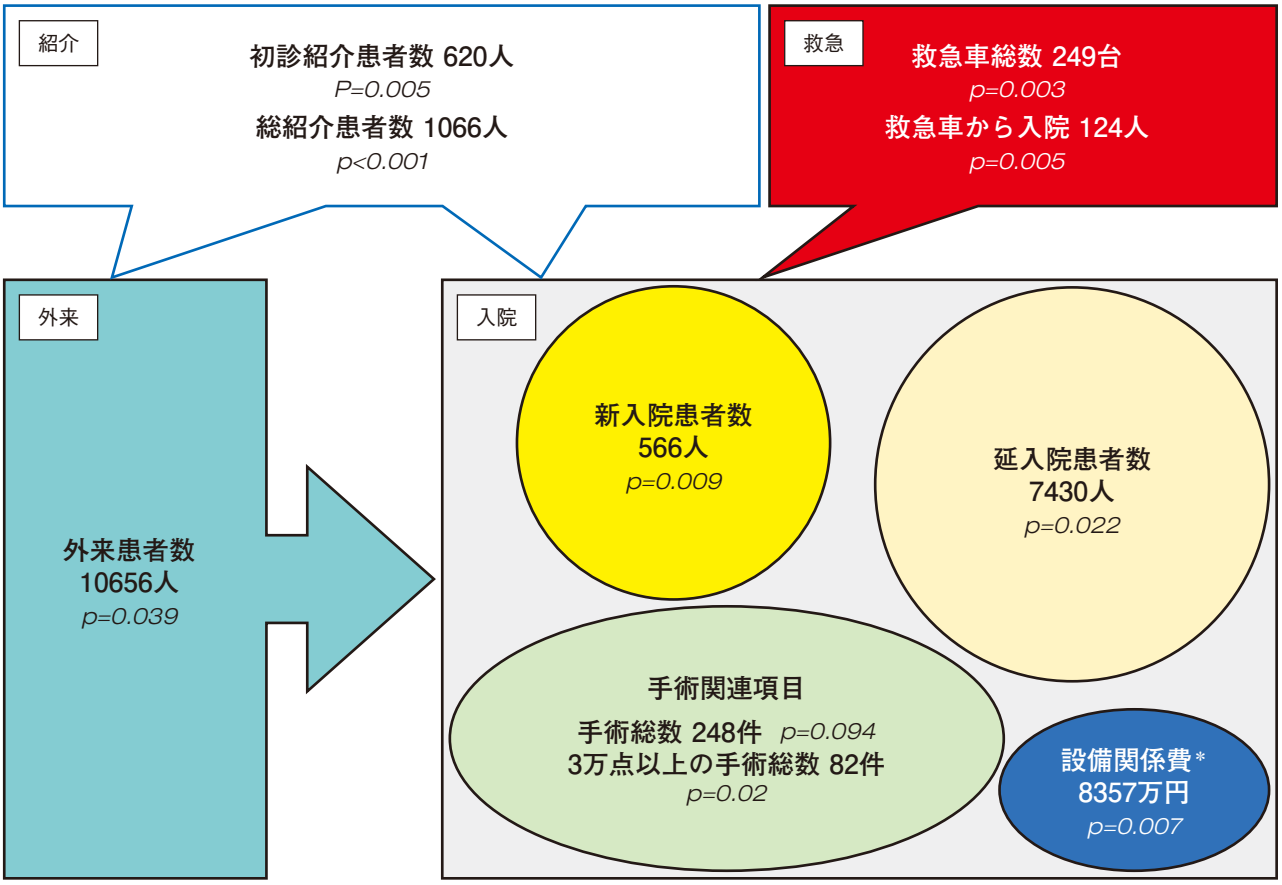
メンバーは、全職種から主に中堅層（40歳前後）を約20名選抜。「病院運営のキープレーヤーは中堅である」と伝える目的と、中堅が現場で感じる改善点は経営に貢献すると考えたためである。病院経営に参画する経験が少ない者が大半であったので、経営マインドを持った人材育成につながった。また、結果として周りへ拡散役の機能も果たした。さらに、中堅層が病院経営を身近に感じるきっかけになったことで、2020年春以後のCOVID-19パンデミックにおいて感染に直接向き合う現場での有機的な対応に結びついたとも考えられる。

（4）行動方針：成功体験の積み重ね

借入金が過大であったため、**費用をかけずに経営を改善する**必要があった。そこで「今と同じ人員でperformanceを上げられないか？」を共通課題とし、初めは短期間で必ず成功することから手を付けた。具体的には「救急入院患者の振り分け策」「入院患者の採血時間の調整」「病院外回り・玄関・外来ロビーの美化」などで、部会設立直後からすぐにpositiveな結果を出し蓄積し得たことで部会メンバーだけではなく職員からの信頼を得ることができた。

（5）数値目標

数値目標：当初はkey performance indicator（KPI）は新入院患者数、外来患者数、救急車受け入れ数の３項目の実数とし、特に新入院患者数が最重要であることを共有した。その後、他の経営指標に関してもデータを見える化して振り返る機会を増加させた（図２）。以前から診療実績などのデータ配信はなされてはいたが、経営の黒字化には結びついていなかった。



*負の相関

図2：医業収支との相関する10項目の損益分岐まとめ：すべて1か月あたり

（6）経営の見える化と褒める

病院職員全体に「経営の現状の見える化」を図るため、特命部長が月末の業務連絡会で報告するとともに、経営レポートを定期発行し４半期の成果を職員全体へ発信した。さらに2020年度からは毎週の部長会で報告を行っている。最新の経営指標などを、「できるだけ迅速に、わかりやすく、さらに前向きなデータを中心に提示し褒めて感謝を伝える。診療科別及び個人のパフォーマンスに関しては良くも悪くも出さない」を心掛け、同じ内容を繰り返し提示することで浸透を図った（図３）。

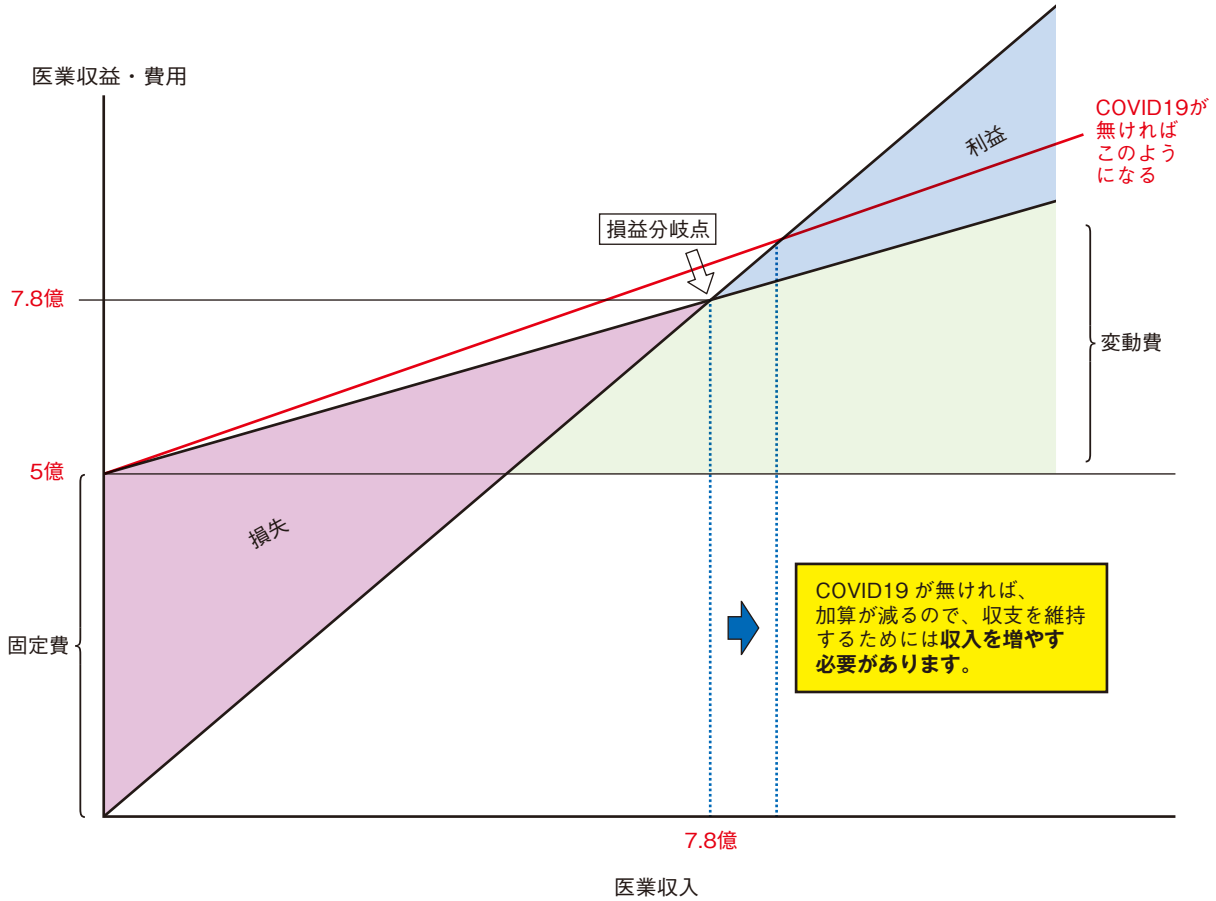


図3：神戸赤十字病院の損益分岐点：COVID19に関する加算の影響

（7）柔軟な組織への変貌

５年間にわたる経営企画部会の活動は、職員の病院経営に関する意識を高め、より病院経営を意識する職員の割合の増加につながったと考えられる。神戸赤十字病院ではCOVID-19パンデミックの第１波では院内クラスターが発生し、外来、入院、手術等の診療を一時ストップせざるを得なかったために、2020年度の医業収支は非常に悪化した（図４）。しかし、感染対策の強化と通常診療の両立にいち早く取り組めたことでその後の経営状態は改善し得た。コロナとそれに伴う経営の悪化という危機感が共有されたことで、結果的には職員全体の病院を思う意識や理念の共有がより強まった機会となったと考えられる。さらに、COVID-19対策においては、現場の中堅層の提案が病院全体の方針となる機会も多く経験したことで、病院経営への参画意識もより強まった。

2018年11月に始めた経営企画部会の活動は、その後のCOVID-19パンデミックを経て、中堅層が病院経営のキープレーヤーであるということを浸透させ、組織としては柔軟な組織へ成熟していったとも考えられる。

（8）経営の黒字化

2018年11月～2019年３月までの成果はたいへん良好で、外来患者数（前年比９％増）、救急車受け入れ台数（前年比７％増）、新入院患者数（前年比４％増）、病床稼働率（前年比４％増）、個室利用率（前年比14％増）となった。一方で、一日あたりの入院診療単価や外来診療単価に大きな上昇はなかったが、患者数の増加により６か月間の診療稼働額は前年比１億６千万円増、医業損益も黒字となった。特に、開院以来、2018年は初めて１年間新たな借入金なしで乗り切ったことが大きな成果の一つである。

2020年にはCOVID-19パンデミックの影響で収支は非常に悪化したが、COVID-19感染対策の強化と連動して通常診療の両立をめざし、経営状況の見える化　病院経営に関する参画意識の醸成等を推し進めた結果、2021年度から2023年度の現在まで医業収支、総収支ともに黒字化を達成している（図１、図４）。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4月	14358674	-12669412	-24688837	-179944624	6162321	30281437	111628
5月	18644528	-46113235	20889221	-320618973	6057235	8929764	16662795
6月	9284262	-36787848	31948717	-140250750	-3285367	-11326219	2451878
7月	-41821105	49506460	38723328	-74121304	-14768655	43583731	27709068
8月	20497685	-4966975	1305968	1290983	-9837018	38523083	
9月	-18499902	-39476790	-59109379	-63367775	45842102	5649996	
10月	-12173385	43724129	-13239228	-45639259	10785949	34902835	
11月	74344701	19552740	3950367	-40725517	-14952659	22361341	
12月	-15868495	-13479782	-33635799	-1458232	36411922	100716181	
1月	-15865307	57807928	32411525	-33949686	42291560	79858412	
2月	87959	8087195	-16427033	-20185041	-84999936	-37196151	
3月	-36235736	-66809799	-16929624	280058862	307336754	-84635211	

（単位：円）

- 2018年11月　経営企画部会スタート
- 2020年４月　COVID-19　第1波

図4：月別の医業損益（2017年4月～2023年7月）

2. まとめ

「費用をかけずに経営改善」を実行する際には、職員に**「気持ちよく働いてもらう」**仕掛けが大切であった。①中堅職員のやる気を引き出す、②経営状況の見える化、③職員に良い点を強調して褒めて感謝する、④小さな成功体験を積み重ねる　を**繰り返す**ことで、大きな投資や人員削減なしに経営は改善した。

さらに経営の黒字化は、今まで頑張ってきたが赤字だと言われ挫けていた多くの職員のモチベーションを向上させ、医療内容（医療の質）に対する職員の自信にもつながり、好循環が起っているのも事実である。「病院の空気が変わった」「黒字化なんて絶対無理だと思っていたのでびっくりしている」等と口にする職員も多くいる。また他の赤十字病院からも少し注目していただけるようになってきている。

一方で、黒字化の持続可能性が今からの問題であり、働き方改革への対応、地域医療構想を踏まえた中長期的な計画に基づいた投資計画等を実行しなくてはならない。

地域医療連携課の歩み

地域医療連携課

【開院からの歩み】

地域医療連携課では看護師と医療ソーシャルワーカー、事務職員が在籍しており地域医療機関からの紹介患者の受け入れ、地域医療機関への患者紹介、入院患者さんの入退院支援などを行っております。

病院も開院して20周年を迎えます。地域医療連携課も地域の患者さんや医療機関の先生方の要望に応えるため改善をしてきております。その歩みについてお伝えします。

開院当初の入退院支援業務は、入院支援に関しては事務部門が行い、退院支援に関しては医療ソーシャルワーカーが行っていました。同じフロア―ではありましたが、地域医療連携係と医療社会事業係という別セクションで運用されていました。７年前の2016年から地域医療連携係に看護師が入退院支援職員として勤務することになり、医療ソーシャルワーカーに加えて退院支援の役割を担うことになりました。看護師は入院患者さんの経過や治療について理解しやすいという利点があります。医療ソーシャルワーカーと連携しながら退院支援を行うことは患者さんにとっても利益になると考え現在に至っています。

入院や救急予約の受付などは、事務部門が行っています。地域の先生方や患者さんをお待たせしないことを目標に「電話のコールは３回以内で出る・５分以内に返答できる」を合言葉に頑張っています。地域の先生方の診察時間に応じるため、平日19：00まで、土曜日12：30まで紹介患者さんの受付を行っています。平日は予約電話以外の対応も多く、肝心な電話対応ができないという理由から2022年12月より予約電話受付を13：30～16：00に変更しました。そして、電話が繋がりやすくなるために電話交換職員を増やし対応しています。

退院支援においては、できるだけ早期に病棟看護師や医師と連携を図り、患者さんのご家族と退院後の生活について話し合います。そして退院支援計画書を作成して退院調整を行います。必要に応じて在宅医、訪問看護ステーションや介護サービス事業者との調整や、退院前カンファレンスを行います。コロナ禍では対面が困難な場面もありましたので、Zoomを利用してカンファレンスを開催していました。

2018年には入院サポートセンターを設置し看護師が、入院前の患者さんに対し診療内容の説明や、入院生活のご案内を行っております。手術を受ける患者さんを対象に始まり、周術期管理チームと協力しながら手術が安心・安全にサポートできるように関わっています。2022年から入院サポートセンターで対応する患者さんを手術を受ける方だけではなく、消化器内科の抗がん剤初回投与、糖尿病教育入院患者さんの受け入れを開始しています。

これからも体制を整え、地域で求められる疾患に対応して、患者さんの入院から退院、退院後の支援へ向け更に質の高いサポートを行っていきます。

2022年２月より看護師・医療ソーシャルワーカー・事務職員が同じセクションで協働できるように場所を移動し、地域医療連携課として機能するようになりました。

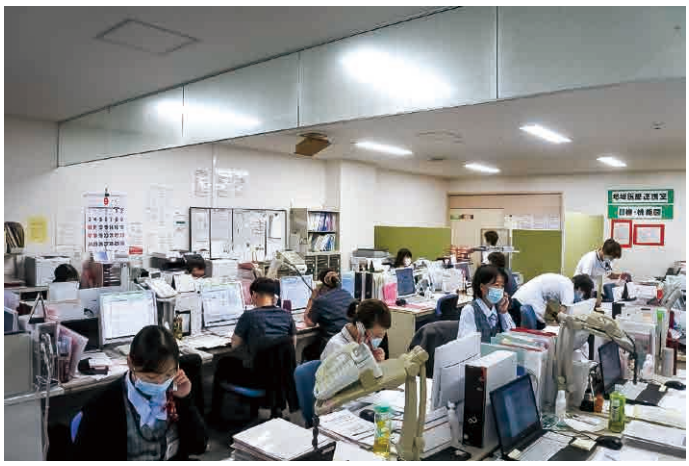
地域の医療機関の先生方や看護師さん、ケアマネージャーさん等からの問い合わせには事務職員が窓口になって対応しています。一体化したことで速やかに関係者に連絡が取れ、迅速に返答ができるようになりました。

2021年８月よりベッドコントロールを地域医療連携課で行うことになりました。地域の先生方からの患者紹介や緊急受け入れに関して、ベッドの稼働状況が速やかに把握でき、待ち時間を最短にしてお返事ができるという利点があります。

このように地域医療連携課では、地域の患者さん、医療機関の先生方、看護師、ケアマネージャー、介護施設の方のニーズに応えられるようにこれからも日々努力していきます。

▲入院サポートセンター

▲2022年引っ越しの様子



▲新 地域医療連携課

【業務内容】

1．業務時間（祝日除く）

平　日／8：30～19：10

土曜日／8：30～12：30

TEL：（078）241-9261（直通）

FAX：（078）241-9265（直通）

2．診察・検査・救急・入院のご依頼

地域医療連携課へTEL又はFAXでご連絡下さい。すぐに予約等の対応をさせていただきます。

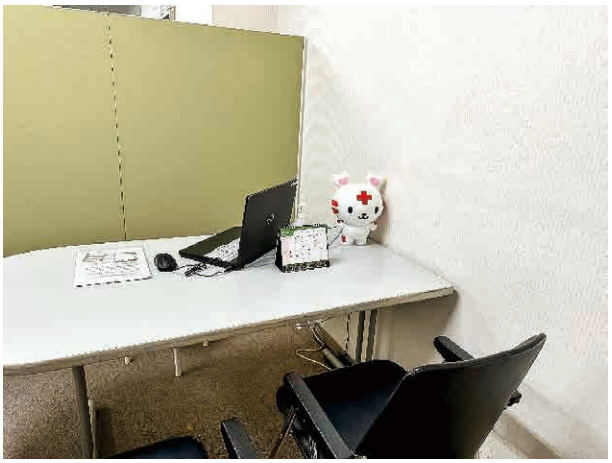
主な依頼検査

上部・下部消化管内視鏡検査、MRI検査（単純・造影）、CT検査（単純・造影）、マンモグラフィー、骨塩定量撮影、冠動脈造影CT検査、RI検査（脳血流・心筋・骨・腎等）、生理検査（心臓エコー・トレッドミル検査等）

上記検査全てTELで予約可能、画像診断は読影医が読影し結果をご報告します。

【患者サポート相談窓口】

患者さんやご家族など診療や療養に関しての不安や不満に対して迅速に対応できるように患者サポート相談窓口を設置しております。当院と患者さん・ご家族等との信頼関係を築くとともに、患者さんの立場に立った医療を心掛けています。



▲相談窓口

▲NsとSWの患者さんの事例検討会

【地域医療連携交流会】

地域医療連携交流会は2004年９月に第１回を開催し、COVID-19の影響で2020年は開催できなかったのですが、2023年度で19回目の開催を迎えます。地域の先生方や看護師さんなどと顔の見える関係作りが楽しみでした。軽食を取りながらの意見交換や情報交換がとても連携に役立ちました。2021年からはWeb開催となっていますが、COVID-19が終息した暁には、是非とも元の交流会へ戻したいと考えています。

【交流会の講演内容】

2004年
- 当院における緊急内視鏡症例の検討
- 診療科紹介及び症例検討

2005年
- 紹介患者の症例検討（糖尿病の教育入院症例）
- 透析シャント閉塞症例
- 内視鏡検査・治療症例

2006年
- より良い病診・病病連携、院内連携のもと患者さんに最適な医療の提供を目指して
- 当院における一二指腸穿孔の治療について
- 肺がんにおける気管支形成術について

2007年
- 大腿骨頸部骨折地域連携パス運用の現状について
- 当院におけるがん診療への取り組み－消化器医療センター設置と病院総合力の活用－
- 地域医療支援病院に係るご報告とお知らせ

2008年
- 痙縮の治療
- 脳卒中の慢性期における機能的脳神経外科
- 最近の当院でのPCIについて
- 当院における肺がん治療について

2009年
- 当院でのクローン病に対するレミケード投与の現状
- 当科における卵巣腫瘍の取り扱い－開腹治療から腹腔鏡まで－

2010年
- 外科の紹介と症例報告
- 嚥下障害に対する治療（外科的治療を中心に）

2011年
- 脳神経内科の紹介
- 神戸赤十字地域医療連携ネットワークシステム－HATクロスネットについて－

2012年
- 脳神経外科の最近の話題から
- 循環器内科最近の話題－ロータブレーター、植込み型除細動器－

2013年
- 形成外科開設１年を経て
- 兵庫県災害医療センターの使命と取り組み－創立10年を迎えての再考－

2014年
- 肺動静脈瘻に対する血管内治療－当院での経験症例を中心に－
- ER・総合診療センターの紹介

2015年
- 「きこえ」の取り扱い
- 外科の12年－集学的治療とチーム医療の重要性－

2016年
- リハビリテーション科の２年間の歩みと今後の展望
- 当院の脳梗塞診断

2017年
- 生理的なリンパ流の改善を目的としたリンパ浮腫の手術治療

2018年
- 当院における気管支鏡手技について
- 眼科白内障手術について

2019年
- 角膜移植について
- L'hopitai Necker-Enfants Maladesでの臨床研修

2020年
- 中止

2021年
- 心肺停止における最近のトピック
- 神戸赤十字病院循環器内科の日常臨床について

2022年
- 神戸赤十字病院における頭蓋額顔面治療について
- 重症熱傷治療の最前線

新型コロナウイルス感染症への対応について

COVID-19対策本部会議事務局（事務部総務課）

1. 感染拡大と当院の対応

令和元年12月中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎患者が確認され、年明け１月６日に厚生労働省より注意喚起の通知がなされた。１月15日には武漢に渡航した中国籍の男性により日本国内初の感染が確認された。１月28日には武漢の客を乗せたバス運転手による日本人初の感染が確認され、その後国内での感染者が増える中、２月27日全国の小中学校に３月２日からの臨時休校が安倍首相より要請された。

３月１日には西宮市在住の男性が兵庫県内患者１例目として確認され、３日には神戸市内で１例目の患者が発生した。当院は感染症指定医療機関でないため、陽性患者の受入れは想定していなかったが、10日に肺炎のため入院した患者が、発熱症状を発したため、保健所と相談の上、PCR検査を実施したところ12日に陽性と判明し、これが当院での入院患者１例目の対応となった（６階西病棟に入院し、13日に転院）。

また、３月13日に６階東病棟に入院した患者については、その後、陽性が判明したが、軽症であったことから、他に転院はせず、当院で療養を行い、20日に退院した。

３月12日、神戸市保健所より、「帰国者・接触者専用外来」開設の依頼通知があり、急遽関係者を招集して協議した結果、屋外に仮設の建物をレンタルで設置し、対応することとした。３月21日には、プレハブの設置が完了し、26日より保健所から紹介のある患者や、外来患者で発熱のある患者の対応を行うようになった。27日には専用外来を受診した患者のうち、２名の陽性が判明し、６階東病棟、６階西病棟に入院した。

４月７日、兵庫県を含む７都府県に緊急事態宣言が発せられたことを受け、院内の体制構築のため、翌８日、第１回コロナウイルス感染症対応臨時会議（第３回目よりCOVID-19対策本部会議に改称）を開催し、定期的に検討を重ねた。

４月９日、当院職員でひとり目となる感染が判明した。４月12日には医師４名の感染が判明し、看護師等10名を２週間の自宅待機とした。急遽診療部長会を招集し、協議の結果、翌日から外来・救急の受け入れを停止することとした。また、４月15日からは来院者に対して、正面玄関での検温（スクリーニング）を開始した。

受け入れ制限は、４月15日に解除されたが、職員の発症が続き23日には患者９名、看護師５名の感染が判明し、看護師等30名を自宅待機とした。これまで、６階西病棟と６階に東病棟の２カ所で陽性患者の受け入れを行っていたが、６階東病棟を新型コロナウイルス感染症り患患者専用病棟としてゾーニングを行い、運用を開始するとともに、当面の間、救急診療、新規外来診療及び新規入院を停止することとした。これを受け翌24日に、院長と事務部長が神戸市役所で第１回目の記者会見を行った。

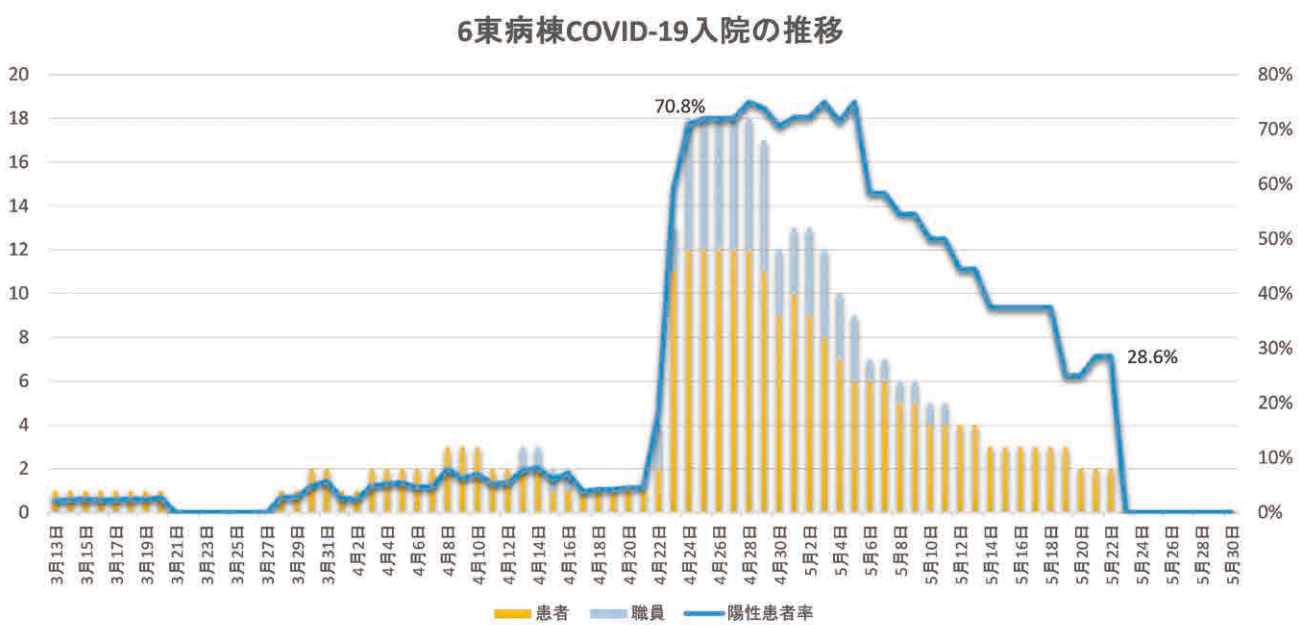
５月３日には患者１名、看護師３名の感染が判明し、看護師39名を自宅待機としたことで、１病棟を閉鎖し、看護職員の確保を図った。この日２回目の記者会見を行った。

さらに５月６日には、患者１名、医師２名、看護師３名の感染が判明し、３回目の記者会見を行った。

その後、神戸市保健所からの指示・協力のもと、徹底した感染対策に努めた結果、院内感染の拡大を疑わせる事例はなかったことから、５月13日の第21回目の会議で対策本部会議を解消し、５月14日からは病院再開に向けた再開対策本部に移行した。

再開対策本部会議では、全部門長及び救急、病棟、外来、手術室ICUの各委員会委員長も参画し、制限をしている診療機能の再開に向けた協議を行い、６月１日に診療制限を解除した。

再開対策本部会議は、引き続き新型コロナウイルス患者の受け入れ体制を確立し、次なる感染拡大に備えるための検討を進め、６月19日の第12回会議まで開催され、第２波対策本部会議に引き継がれた。



第２波対策本部会議は、令和２年７月３日に第１回会議が開催され、令和５年６月21日に解散するまで50回にわたり会議が開催された。

また、新型コロナウイルス感染症への対応のため、医療機関においてPPE（個人防護具）が大量に必要となり、日本のみならず、世界中で不足したことから、当院においても入手できない状態が発生した。

この状況に対して、ビニール袋を使ったガウンを作成することとなった。医師と研修医が中心となり、事務・コメディカルスタッフの協力のもと、3,000枚近くを完成させた。

2. 地域の皆さんからの支援

新型コロナウイルスの国内での感染が広がるにつれ、地域の企業や個人から多くの寄贈が寄せられた。当初はマスクやゴーグル、防護服等の感染対策用の物品が主であったが、院内での感染拡大が報道されるとお菓子やドリンク、お弁当、さらにはお花などの差し入れも行われるようになり、長時間の緊張が続く勤務で疲弊する職員にとって、大きな励みとなった。

そうした中、５月11日、神戸赤十字病院の向かいにある市立なぎさ小学校の窓に「赤十字病院のみなさん いつもありがとうございます みんなで応援しています!!」というメッセージが張り出された。多くの職員が元気を得、深い感銘を受けるとともに、そのメッセージに返信したいという声が自然発生的にあがり、職員有志によりお礼の横断幕を作成し、７月に掲げた。この出来事は多くの新聞で取り上げられた。

新型コロナウイルス感染症への対応について

９月16日には山下院長がお礼として、日赤公式キャラクター「ハートラちゃん」のぬいぐるみを児童代表にお渡しした。

また、学校や企業、自主サークル等から、手紙、寄せ書き、絵手紙等が寄せられ、院内の廊下に掲示した。

さらに、令和２年11月には新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金が支給されるとともに、新型コロナウイルス感染症患者の対応で奮闘する医療従事者を支援するため市民や企業から寄せられた寄付により設けられた「こうべ医療者応援ファンド」からは４回にわたり、現金やクオカードの交付が行われた。

■応援メッセージ等寄贈一覧

寄　贈　元	寄贈品
神戸市立東須磨小学校思いを伝えようプロジェクト一同	手紙
荻原珈琲社員	寄せ書き
神戸諏訪山児童館一同	手紙
ボーイスカウト兵庫連盟一同　明石第２団ビーバースカウト隊	寄せ書き、折り鶴
絵手紙大好き　絵手紙座一同	絵手紙
令和３年度青少年赤十字メンバー	寄せ書き
神戸市立葺合中学校　75回生	寄せ書き
滝川第二中学校・高等学校	寄せ書き

■こうべ医療者応援ファンド支給状況

回数	支給日	対象者	支給状況
1	令和２年６月30日	全職員	現　金
2	令和３年３月19日	入院患者対応職員	現　金
3	令和３年６月30日	全職員	クオカード
4	令和４年９月26日	全職員	クオカード

3. 第２波以降の対応

新型コロナウイルス感染症については、第１波収束後も、重症化率は下がったものの、感染力を強め、７度にわたり感染拡大を繰り返した。

英国由来の変異株「アルファ株」が猛威を振るった第４波では、神戸市保健所からの要請により、令和３年４月30日から５月30日まで、陽性患者の往診診療を開始した。この往診診療には、タクシーを借上げ、医師１名、看護師１名、主事１名（コメディカルスタッフ）が１つのチームとして、酸素供給装置をもって在宅酸素導入などの活動を行い、142件の往診を行った。

また、インド由来の「デルタ株」に置き換わった第５波では、神戸市より宿泊療養施設における医師の健康管理について依頼があり、令和３年８月20日から開始し、５類に移行する直前の令和５年５月３日まで続けられた。

その後も、南アフリカ由来の「オミクロン株」やその新系統による第６～８波と感染拡大を繰り返し、その都度院内では職員の感染やクラスターが発生したが、COVID本部会議を定期的に開催し、対応策を協議した。ときには毎朝実施している救急事例検討会のあと、臨時でCOVID-19本部会議を開催し、迅速に意思決定を行い、職員に周知をすることで、早期の制限解除を行い、診療機能の維持に努めた。

また、職員の感染リスクを下げるため、ワクチン接種を積極的に行い、第１回目の接種を令和３年３月に院内で実施し、その後も５回の接種を実施した。

■新型コロナウイルスワクチン接種状況

	日　　時	接種人数	種　類
１回目	令和３年３月22日～26日、29日、４月19日～23日、26日、27日、６月23日、25日	921	ファイザー
２回目	令和３年４月12日～16日、19日、５月10日～14日、17日、18日、７月13日、19日	906	ファイザー
３回目	令和３年12月20日～24日、令和４年１月11日～14日、17日～21日、31日～２月４日	828	ファイザー
４回目	令和４年８月16日～19日、22日、23日	505	モデルナ
５回目	令和４年12月５日、７日～９日、12日～16日	552	ファイザー
６回目	令和５年７月５日、13日	232	ファイザー
７回目	令和５年11月８日、16日、27日、30日（予定）		ファイザー

令和５年３月13日からはマスクの着用が個人の判断となったが、着用が効果的な場面として、医療機関受診時が推奨されることから、引き続き着用を依頼している。

５月８日からは新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが新型コロナウイルス感染症（２類相当）から５類感染症に移行された。感染力に変わりはないことから、引き続き標準予防策をはじめとする感染対策は行うが、正面玄関でのスクリーニングや面会制限は順次解除をした。

新型コロナウイルス感染症患者新規受け入れ数　683名（2020.3.13～2023.5.7）

4. 他施設等への職員の応援

新型コロナウイルス感染症の蔓延初期段階から、コロナ患者の対応をしたことで、職員には感染防御や患者対応のノウハウが蓄積されたことから、県内外からの派遣要請に対し、積極的に派遣を行った。

老人保健施設でクラスターが発生した多可赤十字病院からは、看護師に加え、看護補助や清掃を行う看護助手の派遣依頼があり、約１か月にわたる派遣期間（令和３年５月20日～６月15日）のうち、１週間（５月28日～６月７日）、看護助手の派遣を行った。この取り組みは全国の赤十字病院でも例がなく、日本赤十字社本社社長より、感謝状が贈呈された。

▲本社社長の感謝状を贈呈される看護助手

▲沖縄でTVの取材を受ける当院看護師

また、厚生労働省から日本赤十字社本社を通じて依頼のあった沖縄県への派遣については、４回にわたり看護師の派遣を行った。

さらに、保健所及びクラスター発生施設への支援、ワクチン接種会場への派遣など、兵庫県、神戸市への協力も積極的に行った。

派遣先	活動内容	派遣依頼元	職種	派遣開始日（年月日）	派遣終了日（年月日）
ダイヤモンド・プリンセス号	乗員乗客の健康管理	日本赤十字社本社	医師	令和２年２月22日	令和２年２月26日
多可赤十字病院	感染防止にかかる指導	多可赤十字病院	看護師	令和３年４月23日	令和３年４月23日
神戸市内	コロナ患者への対応	神戸市	医師 看護師 コメディカル	令和３年４月28日	令和３年５月31日
県下各保健所及び クラスター発生施設	その他	兵庫県	看護師 検査技師 放射線医師 事務職員	令和３年５月１日	令和３年５月30日
多可赤十字病院	コロナ患者への対応	多可赤十字病院	看護師 看護助手	令和３年５月20日	令和３年６月15日
浦添総合病院（沖縄県）	コロナ患者への対応	厚生労働省	看護師	令和３年７月１日	令和３年７月15日
IHDセンタービル（神戸市内）	ワクチン接種	神戸市	医師 看護師 薬剤師	令和３年７月２日	令和３年10月31日
浦添総合病院（沖縄県）	コロナ患者への対応	厚生労働省	看護師	令和３年８月16日	令和３年８月31日
サンルートソプラ神戸アネッサ ニチイ学館ポートアイランド センター宿泊棟 （神戸市宿泊療養施設）	コロナ患者への対応	神戸市	医師	令和３年８月20日	令和５年５月３日
神戸市立医療センター中央市 民病院	コロナ患者への対応	兵庫県	看護師	令和４年７月26日	令和４年８月８日
入院待機センター（沖縄県）	コロナ患者への対応	厚生労働省	看護師	令和４年８月１日	令和４年８月15日
入院待機センター（沖縄県）	コロナ患者への対応	厚生労働省	看護師	令和４年９月１日	令和４年９月15日

注）この原稿は令和５年10月１日時点の情報をもとに作成しています。